

令和2年度

東アジア文化創造 NARA クラス
事業報告書

令和2年9月～11月

奈良市 文化振興課

東アジア文化創造 NARA クラスについて

■ 東アジア文化創造 NARA クラス

「東アジア文化創造 NARA クラス」は、2016 年の東アジア文化都市における日中韓交流事業の成果を未来へと繋いでいくため、大学生や高校生等を対象とした国際文化交流プログラムである。

平成 29 年度から実施しており、奈良市内でさまざまな分野についての学びを深める「東アジア学びの扉」、中韓から大学生や高校生等を招き交流を行う日中韓交流プログラム、さらに現地に渡って学生たちと交流を行う海外渡航プログラムを行ってきた。

■ 令和 2 年度プログラムについて

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、各都市への渡航プログラムの開催が困難となったため、各都市で協議を行い、3 都市共催のオンライン交流プログラムとして実施することで、事業を継続した。

東アジア文化都市 2016 奈良市

「東アジア文化都市 2016 奈良市」では、事業の柱となる「基幹事業」、中国・韓国のパートナー都市とともに開催する「交流事業」、奈良の既存のポテンシャルを生かしさまざまな事業と連携し発信する「連携事業」、そして、東アジアの文化をテーマとした「シンポジウム」で構成。

「交流事業」では、パートナー都市である、中国・寧波市、韓国・済州特別自治道とさまざまな分野において文化交流を行った。

目 次

令和2年度東アジア文化創造 NARA クラス概要	1
交流プログラム	2
参加者の声	9
令和2年度事業 成果と課題	14

令和 2 年度東アジア文化創造NARAクラス概要

参加者応募・選考について

応募資格：奈良市内に在住・在学・在勤の15歳以上25歳未満の方。(中学生をのぞく)

募集期間：令和2年7月21日(火)～令和2年8月21日(金)

○応募者 (人)

結果	高校生	大学生	その他	合計
選考通過	8	12	0	20
落選・辞退	2	13	1	16
合計	10	25	1	36

※選考通過者のうち2人辞退

○参加者

日本 奈良市：18人(大学生12人 高校生6人)

中国 寧波市：21人(大学生3人 高校生18人)

韓国 済州特別自治道：13人(大学生0人 高校生13人)

プログラムスケジュール

9月21日(月・祝)

参加者ガイダンス・3都市交流スタートプログラム

奈良開催地：BONCHI 3階会議室

9月27日(日) 各参加者の自宅や学校等

リモート型グループワーク

10月24日(土) 各参加者の自宅や学校等

リモート型グループワーク

11月23日(月・祝)

成果報告会

奈良開催地：BONCHI 3階会議室

交流プログラム

交流プログラムでは、3つのテーマとそれぞれのミッションを設定し、参加者はどれか1つを選択し参加した。

参加者たちはスタートプログラムにおいてグループの顔合わせを行った後、自宅等から参加できるリモート型グループワークを行い、最後に3都市会場をオンライン中継した成果報告会において各グループの成果を発表した。

テーマ1. 自分がモデルの観光ポスターをつくろう！

各グループがテーマを決めて、そのテーマに合う自分が暮らす街の観光スポットをみんなに紹介。

そして実際にその場所を訪れ撮影した写真を使い、観光ポスターを作成するプログラム。

テーマ2. 「コロナ」と私たちの生活 街中リサーチ

新型コロナウイルス感染症で様々な変化があった生活。グループで決めたテーマについて、どんな変化があったのか、街の人へインタビューをするなど、リサーチしたことを発表するプログラム。

テーマ3. 私のまちのソウルフード！作って食べて、料理レポート

わが街が誇る料理を日中韓のグループメンバーに紹介。みんなで相談し、日中韓で1メニューずつを選び、各都市参加者で実際に料理します。その様子とレシピをグループメンバーで共有し、その内容を発表するプログラム。

参加者ガイダンス・3都市交流スタートプログラム

日 時：令和2年9月21日（月・祝）10:30～16:30

場 所：BONCHI 3階会議室

参加者：奈良市の大学生や高校生 16名（2名欠席）、中国・寧波市の大学生や高校生 21名、
韓国・済州特別自治道の大学生や高校生 12名（1名欠席）

内 容：

<参加者ガイダンス（国内）>

文化振興課長より挨拶を行った後に、事務局よりプログラムの詳しい説明を行った。本年度は全てオンライン上での交流となるため、各参加者の自宅のインターネット環境の確認等、オンライン対応の連絡を行い、その後、中韓パートナー都市の説明と前年度の各都市での交流の様子を紹介し、その後参加者たちからの自己紹介を行った。

参加者たちは緊張しながらも、互いの国を行き来することが困難な状況においてオンラインという形で国際交流ができることを大変楽しみにしている様子であった。

3つのグループに分かれグループごとにスタートプログラムで行われる日中韓対抗都市紹介クイズで出題したい問題をクイズリストから選択した。選択した問題をグループ内で協力しあいながら大判画用紙に手書きし、絵を描くなどのアレンジを加えた。短い時間ではあったが、参加者はグループワークを通して親睦を深めつつ、互いにアイデアを出しあいながら作業を進めていた。本番の流れを確認するため、一度リハーサルを行った。



<3 都市交流スタートプログラム（各都市を skype で中継）>

■ 交流プログラム開始

3都市交流スタートプログラムは、奈良市の進行により行われた。スタートプログラムの冒頭に、奈良市からは市民部の深村部長、寧波市からは教育副局長陳 偉軍氏、濟州道からは文化体育対外協力局長カン・スン Chol氏にご挨拶いただいた。

■ 参加者自己紹介（英語）

その後、日中韓の各参加者による英語による自己紹介を行った。中国語や韓国語を交えて自己紹介を行う奈良市の参加者もあり、これからはじまる交流プログラムへの期待が感じられた。

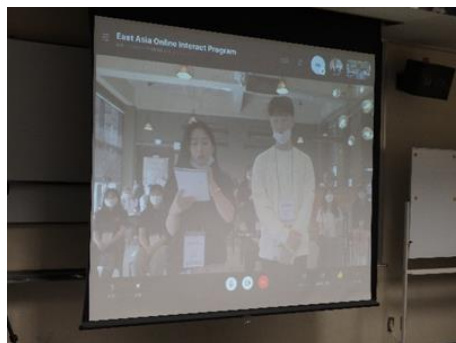
■ 日中韓対抗都市紹介クイズ（英語）

3都市の交流を深めるため、奈良市、寧波市、濟州道それぞれの都市に関するクイズを出し合った。クイズは奈良市、寧波市、濟州道の順に出題し、奈良市の参加者には当日午前中の参加者ガイダンスにおいて作成したクイズフリップを使い、問題の出題と正解発表及び回答を行った。クイズの最中、参加者が誤答の選択肢に笑う場面もあり、簡単なゲームにより緊張をほぐすことができた。

オンラインということもあり、コミュニケーションに戸惑う参加者もいたが、参加者自身が問題を出し合ったことでお互いの都市についての理解を深めることができ、これからの交流プログラムの足掛かりになったのではないかと思う。

■ 今後について（逐次通訳）

最後に奈良市担当者から今後のプログラムについての説明を行い、スタートプログラムを終了した。



リモート型グループワーク（参加者テレビ会議）：1日目

日 時：令和2年9月27日（日） 10:30～17:00

場 所：各参加者の自宅・学校等

参加者：奈良市の大学生や高校生 18名、中国・寧波市の大学生や高校生 21名（若干名欠席あり）、韓国・済州特別自治道の大学生や高校生 13名（若干名欠席あり）

内 容：

■ 『『コロナ』と私たちの生活 街中リサーチ』Aグループ

Aグループは、ミッションシートに沿って各都市のコロナ禍における生活について話し合い、学校生活においてコロナ禍になる前後での変化についてまとめることに決定した。

■ 「自分がモデルの観光ポスターを作ろう！」B・Cグループ

Bグループは、話し合いの結果、ポスターを作成する上での共通テーマを「healing place」とし、時間別に3都市の風景を撮ることになった。（朝：寧波 昼：奈良 夜：済州）

Cグループは、共通テーマを「若者に人気の秋の風景」に設定した。撮影地は各都市参加者で決定し、撮影することになった。

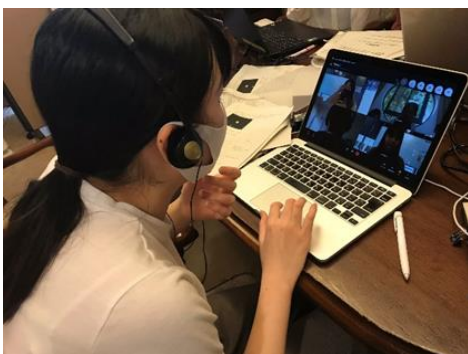
■ 「私のまちのソウルフード！作って食べて、料理レポート」D・E・F・Gグループ

Dグループは、共通テーマを「麺料理」とし、奈良市は三輪そうめん、寧波市は陽春麺、済州は韓国ラーメンを作ることにになった。

Eグループは共通テーマを「各国の有名な料理」とし、奈良市はかき氷、寧波市はおにぎりとかに料理、済州はダルゴナコーヒーを作ることにになった。

Fグループは話し合いの結果、共通テーマを「デザート」とし、奈良はかき氷、寧波市は白玉団子、済州はオレンジティーとインジョルミトーストを作るという結論になった。

Gグループは、共通テーマを「healing food」と設定し、奈良市は柿の葉寿司、寧波市は白玉団子、済州はトッポギをつくることにになった。



リモート型グループワーク（参加者テレビ会議）：2日目

日 時：令和2年10月24日（土） 10:30～17:00

場 所：各参加者の自宅・学校等

参加者：奈良市の大学生や高校生 17名（1名欠席）、中国・寧波市の大学生や高校生 21名
（若干名欠席あり）、韓国・済州特別自治道の大学生や高校生 13名（若干名欠席あり）

内 容：

■ 『『コロナ』と私たちの生活 街中リサーチ』Aグループ

Aグループは、学校生活においてコロナ禍になる前後での変化について各々の都市でまとめてきたことを発表し、成果発表会での発表者を済州参加者に決定した。

■ 「自分がモデルの観光ポスターを作ろう！」B・Cグループ

Bグループは、欠席者や機材トラブルのために交流に参加できない参加者が多く、奈良市参加者3名と済州参加者1名しか参加できなかった。それによりグループワークを進められなかったため、各自で連絡をとりあい成果報告会の準備を進めることとなった。Cグループは、前回の交流時に共通テーマを「若者に人気の秋の風景」に設定したため、今回はそのテーマに沿って撮影してきた写真を紹介し合った。成果発表会までに各参加者で写真に合うテキストを挿入した上で、事務局に写真を提出することになった。なお、成果発表会の発表者については、翌日（25日）までにリーダー（寧波参加者）に希望者からの連絡がなければ、リーダーが発表することになった。

■ 「私のまちのソウルフード！作って食べて、料理レポート」D・E・F・Gグループ

Dグループは、前回の交流で共通テーマを「麺料理」と設定し、奈良市は三輪そうめん、寧波市は陽春麺、済州は韓国ラーメンを作ることになった。今回は、各都市で作ってきた料理をPowerPointで紹介し合い、成果発表会での発表者を寧波市参加者に決めた。

Eグループは前回の交流で共通テーマを「各国の有名な料理」とし、奈良市はかき氷、寧波市はおにぎりとかに料理、済州はダルゴナコーヒーを作ることになった。今回はPowerPointを用いて作ったものを紹介し、成果発表会での発表者を済州参加者に決定した。

Fグループの共通テーマは「デザート」であり、前回交流時に奈良市はかき氷、寧波市は白玉団子、済州はオレンジティーとインジョルミトーストを作ることになっていた。今回の交流では各都市が作ったものを、PowerPointを使って紹介し合い、成果発表会での発表者を奈良市参加者に決定した。

Gグループは、前回に共通テーマを「healing food」と設定し、奈良市は柿の葉寿司、寧波市は白玉団子、済州はトッポギをつくることになっていた。各都市で作ってきた料理を、写真を使用しながら紹介し合い、成果発表会での発表者を各都市参加者に決定した。

成果報告会

日 時：令和2年11月23日（月・祝） 13:30～18:00

場 所：BONCHI 3階会議室

参加者：奈良市の大学生や高校生 18名、中国・寧波市の大学生や高校生 21名、
韓国・済州特別自治道の大学生や高校生 12名

内 容：

<挨拶>

成果報告会は済州特別自治道が進行を行った。

冒頭に、奈良市から市民部の深村部長による挨拶を行った。また、寧波市からは寧波市教育局副局長 汪 維民（オウ イミン）氏、済州道からは済州道文化芸術財団理事長 イ・スンテク氏、駐済州中国総領事館からは総領事 王 魯新（オウ ロシン）氏、駐済州日本総領事館からは総領事 井関 至康（いせき よしやす）氏にご挨拶いただいた。

<成果報告>

A～Gグループの順で成果報告を実施した。発表担当の参加者は少し緊張しているようだったが、自分たちがまとめてきた成果を堂々と発表している様子だった。

済州、寧波、奈良の順で各都市3人ずつ参加者代表から挨拶を行った。

同じテーマのグループであっても、それぞれの特色が出ており、各都市参加者が最後まで楽しみながらも真面目に取り組んでくれていたことがうかがえた。

<フィナーレ>

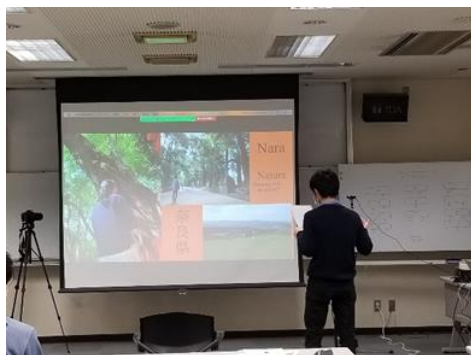
済州事務局が作曲したオリジナル曲「心が歌う風」を合唱した。

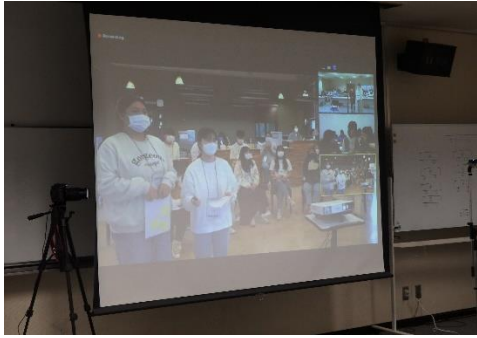
この曲は本プログラムにあわせて済州のアーティストが作曲し、済州の参加者が作詞し、日本語訳、中国語訳を行ったもの。

奈良の参加者は恥ずかしさがあったのか、口ずさむ程度であったが、フィナーレを音楽でなごやかに迎えることができた。

なお、交流終了後は、奈良市参加者のみで一人ずつ1分程度感想発表をしてもらった。

「次は直接会って交流したい」「ワークに取り組む中で奈良の魅力を再確認できた」「積極的に自分からコミュニケーションをとる大切さを感じた」といった感想があった。





<実施後アンケート（奈良市参加者）>

参加者1（参加テーマ：『コロナ』と私たちの生活 街中リサーチ）

①自分が所属したグループでの活動を振り返り、良かったこと

寧波・濟州各地域の現状を知ることができた。コロナにより今の生活が変化していたが日本とはまた少し違うことを知られてよかった。

②自分が所属したグループでの活動の反省点

特に日本のグループの人たちと連携が上手くとれていなかった点。もっと事前に動き話し合う時間を設けるべきだったと思う。

③本プログラムを通じて自身が学び得たこと

今回直接会うことができず、Skypeをつないでの交流で感じたのは言葉の壁です。英語でのやりとりでしたが、はじめは聞くことができても話すことがなかなかできなかったのですが、2回目には話を少しすることができました。ここから私はチャレンジする力を学ぶことができたと思います。

④今回の経験や交流をどのように生かしたいか

私は将来日本のよさを世界に発信する仕事をしたいと思っています。今回の経験から文化の違いを改めて知ることができ、これを将来仕事で役立てればと思います。

⑤一緒に活動した日中韓参加者へのメッセージ

少しの時間でしたが、ありがとうございました。

交流できたこと嬉しく思います。今回はコロナの影響で直接会うことができなかったので、今の状況を脱し平和な世の中になったときにはみなさんにお会いできたらと思います。本当にありがとうございます。

参加者2（参加テーマ：自分がモデルの観光ポスターをつくろう！）

①自分が所属したグループでの活動を振り返り、良かったこと

写真を仲間と相談しつつ、多く撮れたことが良い点だと思う。また、オンラインでの交流で会議ではチャット中心の進行となったが、情報整理が簡単でネット上での交流の利点を感じた。また、意見を多く反映させて写真を撮る日程や場所、鹿のカチューシャの使用などの決定をできた点が良いと思った。

②自分が所属したグループでの活動の反省点

Skypeでの会議を会話で進行することができなかった。英語力に自信がなかったため、また思いきりを持たなかったことが原因だと考える。最後のポスター作成では個人作業に頼ることが多く、作品に個人差が生まれ、意見の反映がなかったことが反省点だ。

③本プログラムを通じて自身が学び得たこと

一つは奈良の魅力を再発見できたことだ。今まで観光名所に観光客として訪れた機会は少なく、また、長年奈良に住んでいるからこそ、水谷神社などの穴場的スポットで奈良の自然を感じるなどことができ、一層奈良のことを誇りに思った。

もう一つは発信力の高さの必要性だ。グループワークでは何でも意見を持ち、発言することが大切だと学んだ。

④今回の経験や交流をどのように生かしたいか

今回の交流でオンラインでも素敵な交流や企画達成ができると学んだ。今まで出会った子や今回新しく出会った子とともに新しく異文化交流の機会をつくりたいと思う。また、奈良の魅力を世界に知ってもらえるような仕事に就きたいと思うようになった。まだまだ素敵な部分があると思うので、散策をし、周囲にも広めたい。

⑤一緒に活動した日中韓参加者へのメッセージ

今回自分はリーダーとして仲間をリードできるか不安だったが、チャットでのアイデアや写真の面などで助けてもらう場面が多く、メンバー全員に深く感謝しています。また発表前には個人での作業となりましたが、各々素晴らしい作品をつくってもらい、感動しました。今回はオンラインで参加者全員を深く知る機会が少なく残念に思いましたが、感想を聞き、皆同じような悩みを抱えていると知りました。日中韓で政治とか関係なく仲の良い関係を築きたいと思いました。

参加者3（参加テーマ：自分がモデルの観光ポスターをつくろう！）

①自分が所属したグループでの活動を振り返り、良かったことを書いてください。

今回ポスター作りでグループのメンバーと一緒に撮影して交流ができた。

皆で案を出し合って、スカイプを通して交流できたこと。

②自分が所属したグループでの活動を振り返り、反省点を書いてください。

スカイプで自分の声の接続機能が上手くいかずに、直接話せなかった。

あまり案を出すことができなかった。

③本プログラムを通じて自身が学び得たことを書いてください。

他の国の文化や歴史を知ることができ、また奈良の魅力を再発見できたこと。

他の国の人たちが自分の意見をしっかり伝えられていたこと。

④今回の経験や交流をどのように生かしたいと思いますか？

もっと他の文化交流に参加したいと思ったり、オンラインでこのようなプログラムができることを知ったので、自ら企画してやってみたいと思いました。

⑤一緒に活動した日中韓参加者にメッセージ

短い期間でしたが、一緒に交流ができて本当にありがとうございました。

自分が知らなかったことが多く知れて、今度は直接訪れて皆ともっといろいろ話したいです。コロナが流行っているなので、体には気を付けてください！

参加者4（参加テーマ：私のまちのソウルフード！作って食べて、料理レポート）

①自分が所属したグループでの活動を振り返り、良かったことを書いてください。

私のグループは三輪そうめんを作ったのだが、買い出しから調理、原稿作り、英訳まで3人で集まってできたので良かった。レシピ本を初めて作ったが、私たちでも分かる、簡単な英語を使うことができて良かった。

②自分が所属したグループでの活動を振り返り、反省点を書いてください。

三輪そうめんに関する知識が全然無かったので、盛り付けなども中国や韓国の人のようにあまりこだわることができなかった。また、ズームがあまり機能せず、最後はほぼチャットだけで会話を進めてしまった。

③本プログラムを通じて自身が学び得たことを書いてください。

ズームをするのが初めてだったのだが、声や表情が予想以上に分かり辛かったので、近づいてはっきり話すほうが良いと思った。多分お互い英語を思う存分つかいこなせるわけではないから、会話が難しかった。

④今回の経験や交流をどのように生かしたいと思いますか？

1つのことを3カ国でするという初めての体験ができたので、これを強みに、これから留学や国際交流をするときに、自ら会話を進められるようになりたい。また、相手の国の言葉や文化を予めもっと知っておくようにしたい。

⑤一緒に活動した日中韓参加者にメッセージ

4回しか顔を見る機会がなく、あっという間だったけれど、ありがとうございます寧波も濟州もとても美味しそうな麺でした。この状況がおさまったら私は絶対に寧波と濟州に行きたいです。次もし会うときには英語も韓国語も中国語も上達しているように頑張ります。

参加者5（参加テーマ：私のまちのソウルフード！作って食べて、料理レポート）

①自分が所属したグループでの活動を振り返り、良かったことを書いてください。

毎回のグループワークで全員が参加できているわけではなかったですが、それぞれが相手の国に対して関心のある話題を取り上げ、お互いにあゆみよることができました。短い時間の中で互いを知ろうと、努力できたことが良かったです。

②自分が所属したグループでの活動を振り返り、反省点を書いてください。

緊張や、慣れないオンラインでのグループワークということもあり、沈黙になってしまった瞬間があったことです。また、段取りがスムーズにいかないことがあったことです。

③本プログラムを通じて自身が学び得たことを書いてください。

住んでいる地域や話している言葉、文化や習慣が違って共通の話題や関心事があれば、だれでも仲良くなれるということが分かりました。また、そのためにはお互いを知りたい、分かりたいという努力をして歩みよる姿勢が大切だと今回のプログラムを通し

て身を持って学びました。さらに直接会うこともしたことはないですが、オンラインで繋がることができると分かりました。

④今回の経験や交流をどのように生かしたいと思いますか？

今回の経験を生かして、今後も多国籍の人との交流に限らず、様々な人々と交流をするときに、相手をより知ろうという気持ちを常に持っていきたいと思います。また、今後もしばらくコロナの影響で直接お互いの国に行くことは難しいと思いますが、SNSを通して交流を続けていきたいです。

⑤一緒に活動した日中韓参加者にメッセージ

一緒にグループワークをしてくれてありがとう！おかげで楽しい時間を過ごすことができました。またコロナが落ち着いたらみんなで会いたいです。

参加者 6 (参加テーマ：私のまちのソウルフード！作って食べて、料理レポート)

①自分が所属したグループでの活動を振り返り、良かったことを書いてください。

中国メンバーのおかげで、グループワークがとても和やかになりました。また、韓国メンバーの先導力やPPTの作成力には驚きました。オンラインでも仲良くなり、InstagramやWechatでもコミュニケーションとれる仲になれて嬉しいです。

②自分が所属したグループでの活動を振り返り、反省点を書いてください。

中韓の発表に対して、上手く英語でコメントを返せませんでした。チャットと実際に話す、この2種類の使い分けに適応できれば良かったです。

③本プログラムを通じて自身が学び得たことを書いてください。

本プログラムを通して、中韓の高校生の英語力の高さに驚きました。また事前準備の厚さにも驚きました。それだけ中韓は国際交流に関心が高い国であると分かったので、日本の子どもたちの関心も引き上げていきたいです。

④今回の経験や交流をどのように生かしたいと思いますか？

オンラインであっても、国際交流は可能であると分かりました。この経験を生かして、教員になった際は、子どもたちにこのような場を提供したいです。コロナだからこそ普及したオンラインを武器に、今後の教育現場での異文化交流推進の先導者になりたいです。

⑤一緒に活動した日中韓参加者にメッセージ

中韓の友達に出会えて嬉しかったです。コロナが収束したとき、必ず皆さんに会いに行きます。それまで、連絡をとり続けましょう！

参加者 7 (参加テーマ：私のまちのソウルフード！作って食べて、料理レポート)

①自分が所属したグループでの活動を振り返り、良かったことを書いてください。

中国、韓国のグループのメンバーと話せてよかったです。特に、ワークについての話だけでなく、それ以上の話もできてとても楽しかったです。また、お互いの食文化について知ることができ、貴重な経験となりました。

②自分が所属したグループでの活動を振り返り、反省点を書いてください。

お互いにグループ内で連絡を取り合うことがあまりできませんでした。発表の前日に、お互いの情報を急いで交換し合うということがありました。また、自分たちのパワーポイントが、他の国の人たちは見られないということに気づくのが遅く、迷惑をかけてしまいました。

③本プログラムを通じて自身が学び得たことを書いてください。

言語や文化は違っても、通じ合えるということを学びました。もちろん、なかなか言葉が伝わらず、お互いに苦戦する場面もありましたが、それよりもお互いの気持ちや考えが伝わって嬉しいと感じることがたくさんありました。

④今回の経験や交流をどのように生かしたいと思いますか？

ここでの経験を生かし、他の国、異文化関係なく積極的に人と関わっていきたいと思います。やらなければ何も得られませんが、何かすれば必ず何かを得られると、この交流で感じました。だからこそ、何事にも前向きに取り組んでいきたいと思います。また、レシピを参考に、他の国の料理を作りたいです。

⑤一緒に活動した日中韓参加者にメッセージ

約3か月間、ありがとうございます。はじめは不安だけでしたが、皆さんが明るくて優しい人ばかりだったので、本当に楽しく活動することができました。プログラムはこれで終わってしまいましたが、これからもみなさんと会えることを楽しみにしています。本当にありがとうございました。

令和2年度事業 成果と課題について

<成果>

- 本プログラムは日中韓の文化の力による平和構築をめざした「東アジア文化都市 2016 奈良市」事業を契機として始まったものである。感染症流行の影響によりオンラインという形になったが、交流プログラムを通じて、各国、各都市の文化に触れることができ、相互理解につながる内容であった。
- コロナ禍において大学生・高校生の国際的な活動が制限されており、本事業を通じて、今後の国際活動に関わる意識を高められることができた。
- オンライン形式にすることにより、英語によるコミュニケーションが中心となり、英語学習の必要性を感じる参加者が多く、学習意欲向上につながった。
- 各都市事務局がオンライン交流のノウハウを得たことは、次年度以降の交流プログラムの企画につながる事が期待できる。
- 新型コロナウイルス感染症対策緊急雇用事業として雇い入れた大学生 2 名が事業企画に参加することで、大学生や高校生にとって参加しやすい企画内容や雰囲気をつくることができた。
- 希望者に限りメールアドレスなどの連絡先を中韓参加者と交換した。本事業終了後も継続的な交流につながる事が期待できる。

<課題>

- 画面越しの交流となったため、例年より親交を深めることが難しいようであった。特に英語などの言語が苦手な参加者はコミュニケーションに苦勞していた。
- 機材トラブルにより交流ができない場面もあった。通信環境などは参加者の環境によるところが大きく、事前チェックなどの必要性を感じた。
- 成果報告会の準備などは、参加者各自で連絡をとりながら進めていたので、進捗などを把握することが難しくなった。また、連絡がとれないなどの相談もあり、対応に追われた。
- コロナ禍におけるプログラムとして、一定の成果をみることはできたが、例年の交流企画の代替にはならず、次年度以降はオンラインの特性を活かすような企画内容を検討する必要がある。

奈良市文化振興課
奈良市二条大路南一丁目 1-1
☎0742-34-4942 📠0742-34-4728
令和 2 年 12 月